

災害に係る住家の被害認定基準運用指針（抜粋）

【 総 則 】

1. 目的

災害に係る住家の被害認定基準運用指針（以下「運用指針」という。）は、災害により被害を受けた住家の被害認定を迅速かつ的確に実施できるよう具体的な調査方法や判定方法を定め、的確かつ円滑な被害認定業務の実施に資することを目的とする。

2. 災害の被害認定基準と被害調査の運用

認定基準は、災害の現況を迅速かつ的確に把握し対応するための情報の目安という面と、各種被災者支援策の判断材料となる被害調査の基準としての面がある。

したがって、災害が発生した場合には、被害の状況をより迅速かつ的確に報告する必要があり、一方で、災害による被害の程度を正確に把握する必要があるなど、同じ認定基準に基づいた調査であっても、行政目的と時間の経過によって、被害状況の把握方法と内容は変わってくるものである。

例えば、災害発生時からの的確に災害対策を講じるためには、災害の規模、被害状況の全体像を一刻も早く把握することが最も重要である。したがって、この場合の認定基準は、速報性に重点を置いた報告の判断基準となる。

一方、災害に係る住家の被害調査は、この調査に基づいて発行される「り災証明」が被災者支援策の判断材料の一つとして用いられているが、これは災害の全体像ではなく、個々の住家の被害程度に着目するものである。したがって、この場合の認定基準は、的確性に重点を置いた形で使用されることが求められる。

3. 適用範囲

本運用指針は、基本的には地震による被害に代表されるように部材等が外力により物理的に破壊される被害が発生する住家と、浸水被害に代表されるように外力による部材等への物理的な被害が生じていない、あるいは軽微であっても、吸水により機能劣化が生じるなどの被害が発生する住家を想定して作成したものである。また、他の災害で住家に被害が発生した場合、本運用指針を活用することは差し支えない。

4. 調査方法

地震等の災害により被災した住家に対する被害調査（浸水による被害を除く。）は、第1次判定及び第2次判定のため、住家の外観から目視によって被害の程度を調査する外観目視調査を行う。

外観目視調査による判定結果に対し被災者等からの再調査の申請があった場合は、第3次判定のため、外観目視調査及び住家の内部に立ち入って目視により調査する内部立入調査を行う。

なお、第3次判定のための調査は申請者の立会いを必要とし、倒壊の危険がある等、内部立入調査ができない相当の理由がある場合は、外観目視調査のみでも可とする。

浸水による被害を受けた住家に対する被害調査は、第1次判定のため、外観目視調査を行い、第1次判定で浸水が床上まで達しているとされた住家等について、第2次判定のため、外観目視調査及び内部立入調査を同時に行う。

また、豪雨や台風等の場合、水流によって住家に外力が働き生じる被害と浸水による被害が混在することがある。この場合、双方の被害について部位別の損害割合を比較してその大きい方をとり、その損害割合の合計で判定することができる。

なお、第2次判定のための調査は、申請者の立会いを必要とし、倒壊の危険がある等、内部立入調査ができない相当の理由がある場合は、外観目視調査のみでも可とする。

被害調査は、本運用指針及び調査表等により行い、その結果に基づいて住家の被害の程度を判定する。

5. 判定方法

今回見直した住家の認定基準は、被災した住家の延床面積と損壊等した部分の床面積の一定割合、又は被災した住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で示し、その住家の損害割合が一定割合以上に達したものを全壊又は半壊としている。

しかし、これを忠実に適用し住家の被害の程度（全壊・半壊等）を判定するには著しい労力と膨大な時間を要し、また、建築の専門的知識を要するものであることから、本運用指針においては、一般的な住家を想定し、各部位にかかる施工価格等を参考に設定した部位別構成比を採用することとし、被災した住家の部位ごとの損傷率を部位別構成比に乗じてそれぞれの損害割合を算出し、損害割合の合計によって住家の被害の程度（全壊又は半壊等）を判定する。

●地震等による被害（浸水による被害を除く。）

(1) 第1次判定

木造・プレハブ、非木造の別なく、外観からの目視調査を行い、一見して住家全部が倒壊している場合、住家の一部の階が全部倒壊している場合は全壊とする。全壊と判定されれば調査は終了する。

(2) 第2次判定

第1次判定で、全壊と判定されなかった住家について外観目視調査を次のとおり行う。

①木造・プレハブについては、外壁又は柱の傾斜が $1/20$ 以上は全壊とする。全壊と判定されれば調査は終了する。

外壁又は柱の傾斜が $1/60$ 以上 $1/20$ 未満は損害割合15%とし、柱（または耐力壁）、基礎を除く部位別損害割合を合算して算出する。このうえで、この合算して得た値と全体の部位別損害割合の合計値のうち、いずれか大きい数値により、全壊、半壊等を判定する。

②非木造については、外壁又は柱の傾斜が $1/30$ 以上は全壊とする。

全壊と判定されれば調査は終了する。

外壁又は柱の傾斜が $1/60$ 以上 $1/30$ 未満は損害割合20%とし、柱（または耐力壁）を除く部位別損害割合を合算して算出する。このうえで、この合算して得た値と全体の部位別損害割合の合計値のうち、いずれか大きい数値により、全壊、半壊等を判定する。

③部位別損害割合の合計値が50%以上の場合は全壊とする。20%以上50%未満の場合は半壊とする。

(注1) 傾斜は原則として住家の1階部分の柱又は壁の四隅を計測して、単純平均したものとする。

(注2) 非木造のうち集合住宅等の大規模なもので、全体で調査、判断することが困難な場合は、被害が最も大きいと思われる階のみを調査し、全体の損害割合として差し支えない。

(3) 第3次判定

第2次判定までの結果に対し、被災者等から再調査の申請があった場合には、外観目視調査とともに内部立入調査を行い、第3次判定を行う。流れは(2)の①～③と同じであるが、内部立入調査を行うため、調査対象部位が床や天井など、内部から確認できる部分にも細かく区分されている。

●浸水による被害

(1) 第1次判定

木造・プレハブ、非木造の別なく、外観目視調査によって浸水が床上まで達していないものについては、原則として調査は終了する。

(2) 第2次判定

第1次判定で浸水が床上まで達しているとされた住家及び第1次判定で浸水が床上まで達していないとされた住家で、再調査の申請があった場合について、外観目視調査とともに内部立入調査により部位別損害割合を算定し判定を行う。

①木造・プレハブについては、部位別損害割合の合計値が50%以上の場合は全壊とする。20%以上50%未満の場合は半壊とする。

②非木造については、部位別損害割合の合計値が20%以上の場合は半壊とする。

③豪雨や台風等の場合で水流によって住家に外力が働き生じる被害と浸水による被害とが混在している場合には、地震等による被害の場合の第3次判定と同内容の調査による判定を行い、これにより全壊と判定されれば調査は終了し、全壊と判定されない場合には、浸水による被害について第2次判定を行い、部位別の損害割合を比較してその大きい方をとり、判定を行う。

6. 部位別構成比の取り扱いについて

本運用指針は、一般的な住家を想定し、各部位にかかる施工価格等を参考に設定した構成比を採用しているが、住家の部位別構成比は、その規模、階数、仕様により異なり、また、地域差も存することから、地域に応じた適切、適當と思われる部位別構成比を作成して使用することも必要なことと思われる。

7. 集合住宅の扱いについて

原則として1棟全体で判定し、その判定結果をもって各住戸の被害として認定するものとする。

8. 応急危険度判定及び被災度区分判定との関係

応急危険度判定は、大規模地震の直後に一般的に実施されるが、これは建築の専門家が余震等による被災建築物の倒壊危険性及び建築物の部分の落下の危険性等を判定し、その結果に基づいて当該建築物の当面の使用の可否について判定することにより、二次的災害を防止することを目的とする。したがって、落下物の除去等、適切な応急措置が講じられれば判定が変更されることもあり得る。すなわち、応急危険度判定で「危険」と判定された住家が、必ずしも全壊又は半壊と認定されるとは限らない。

また、被災度区分判定は、建築主の依頼により建築の専門家が被災した建築物の損傷の程度及び状況を調査し、被災度区分判定を行うことにより、当該建築物の適切かつ速やかな復旧に資することを目的とする。すなわち、被災建築物の損傷の程度、状況を把握し、それを被災前の状況に戻すだけでよいか、またはより詳細な調査を行い特別な補修、補強等まで必要とするかどうかを比較的簡便に判定しようとするものである。

したがって、応急危険度判定及び被災度区分判定は、災害による個々の住家の「被害の程度」を判断することを目的とした被害認定業務を行うための本運用指針とはその目的、判定基準を異にするものである。

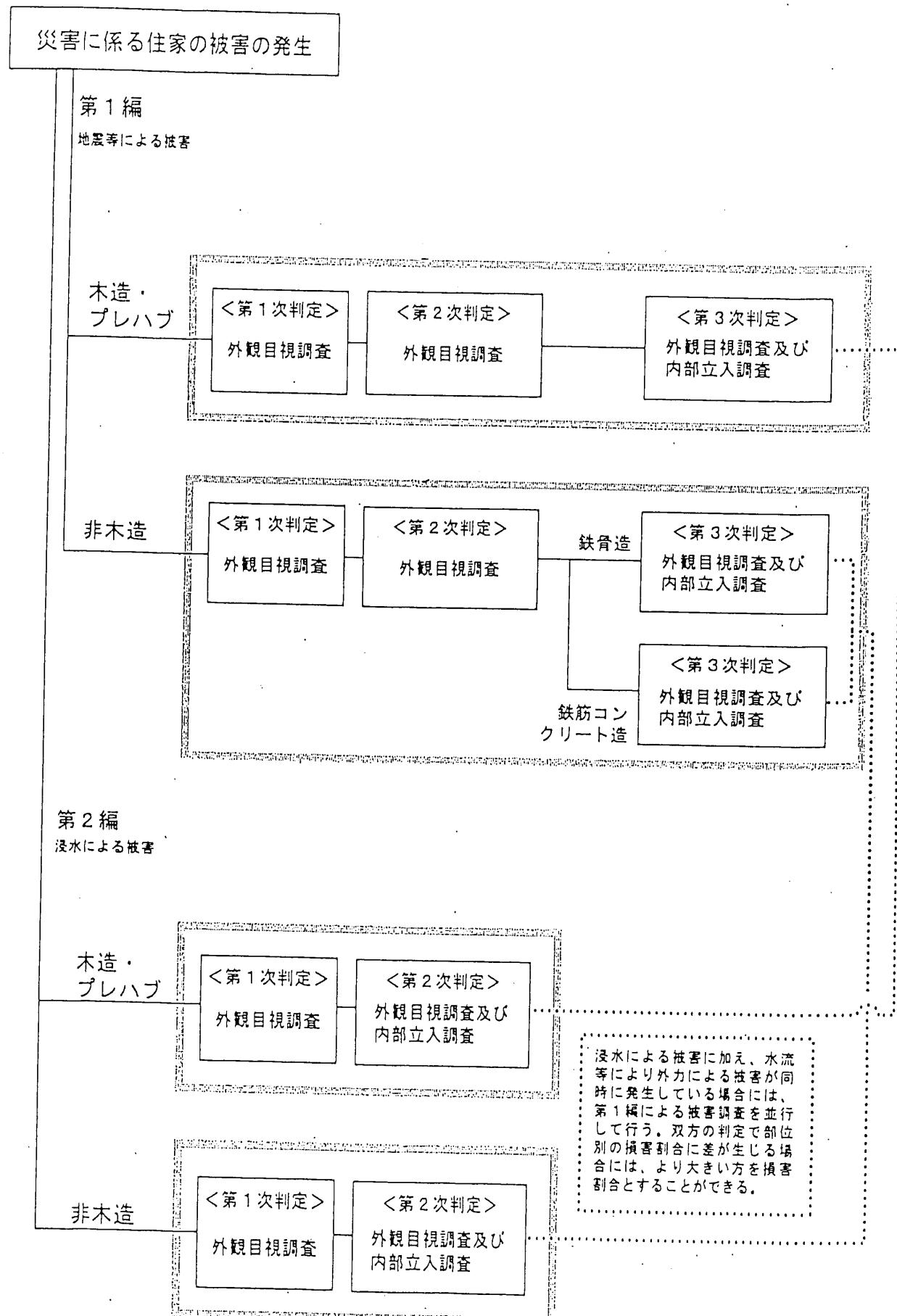
ただし、住家の被害を調査するにあたり、傾斜度など調査内容において共通する部分もあることから、本運用指針による調査に先立ちこれらが実施されている場合に、相違を踏まえた上でその内容を活用することも考えられる。

9. その他

国は見直した住家の認定基準及び運用指針について地方公共団体に対して助言を行うとともに、都道府県及び市町村は、市町村の職員が円滑に被害調査を実施することができるよう、住家の認定基準の内容、被害の調査方法及び判定方法などについて、十分な知識を得るために環境を整備することが必要であると考える。

また、大規模地震災害等により、単独の市町村で被害調査を速やかに実施することが困難な場合を想定すると、都道府県間あるいは近隣市町村間との相互協力や、応急危険度判定士、被災度区分判定士、地元の建築士会等との相互支援も重要であり、平時より応援、協調体制を整えておく必要もあると思われる。

(参考) 被害認定の流れ



第1編（地震等による被害） 木造・プレハブ

<第1次判定> 外観目視調査

[外観目視による判定]

- 一看して住家全部が倒壊
- 一看して住家の一部の階が全部倒壊

<第2次判定> 外観目視調査

[傾斜による判定]

- 外壁または柱の傾斜
 - 1/20以上
 - 1/60以上1/20未満
(損害割合15%)

[部位による判定]

- 屋根
- 柱（または耐力壁）
- 壁（外壁）
 - 柱（または耐力壁）が外観から確認できない場合は、壁（外壁）の損傷率を柱（または耐力壁）の損傷率として採用することができる。
- 基礎
- 部位別損害割合 計
 - 50%以上
 - 20%以上50%未満

<第3次判定> 外観目視調査及び再調査の申請 内部立入調査

[傾斜による判定]

- 外壁または柱の傾斜
 - 1/20以上
 - 1/60以上1/20未満
(損害割合15%)

[部位による判定]

- 屋根
- 柱（または耐力壁）
- 床（階段を含む。）
- 外壁
- 内壁
- 天井
- 建具
- 設備
- 基礎
- 部位別損害割合 計
 - 50%以上
 - 20%以上50%未満

全壊

半壊

傾斜、屋根、壁（外壁）の
損害割合の合計

50%以上

20%以上50%未満

傾斜、屋根、床（階段を含む。）、外壁、
内壁、天井、建具、設備の損害割合の
合計

第1編（地震等による被害） 非木造

<第1次判定>外観目視調査

(外観目視による判定)

- 一見して住家全部が倒壊
- 一見して住家の一部の階が全部倒壊

<第2次判定>外観目視調査

[傾斜による判定]

- 外壁または柱の傾斜

1/30以上

1/60以上1/30未満

(損害割合20%)

[部位による判定] 構造種別の区分をせず判定する。

柱で判定する場合

- 柱
(または外壁)

- 雑壁・
仕上等

- 外壁

柱で判定する場合

外壁で判定する場合

- 設備等
(外部階段を含む。)

□部位別損害割合 計

50%以上

20%以上50%未満

柱
(または耐力壁)
または外壁、梁の損傷率が75%以上

<第3次判定> 外観目視調査及び再調査の申請 内部立入調査

[傾斜による判定]

- 外壁または柱の傾斜

1/30以上

1/60以上1/30未満

(損害割合20%)

[部位による判定]

鉄骨造、鉄筋コンクリート造の2種類に区分した上で、構造種別で判定する。

- 柱 (または耐力壁)

- 床・梁

- 外部仕上・雑壁・屋根

- 内部仕上・天井

- 建具

- 設備等 (外部階段を含む。)

□部位別損害割合 計

50%以上

20%以上50%未満

全壊

半壊

柱で判定する場合：傾斜、雑壁・
仕上等、設備等 (外部階段を含む。)
の損害割合の合計

外壁で判定する場合：傾斜、設備
等 (外部階段を含む。) の損害割
合の合計

50%以上

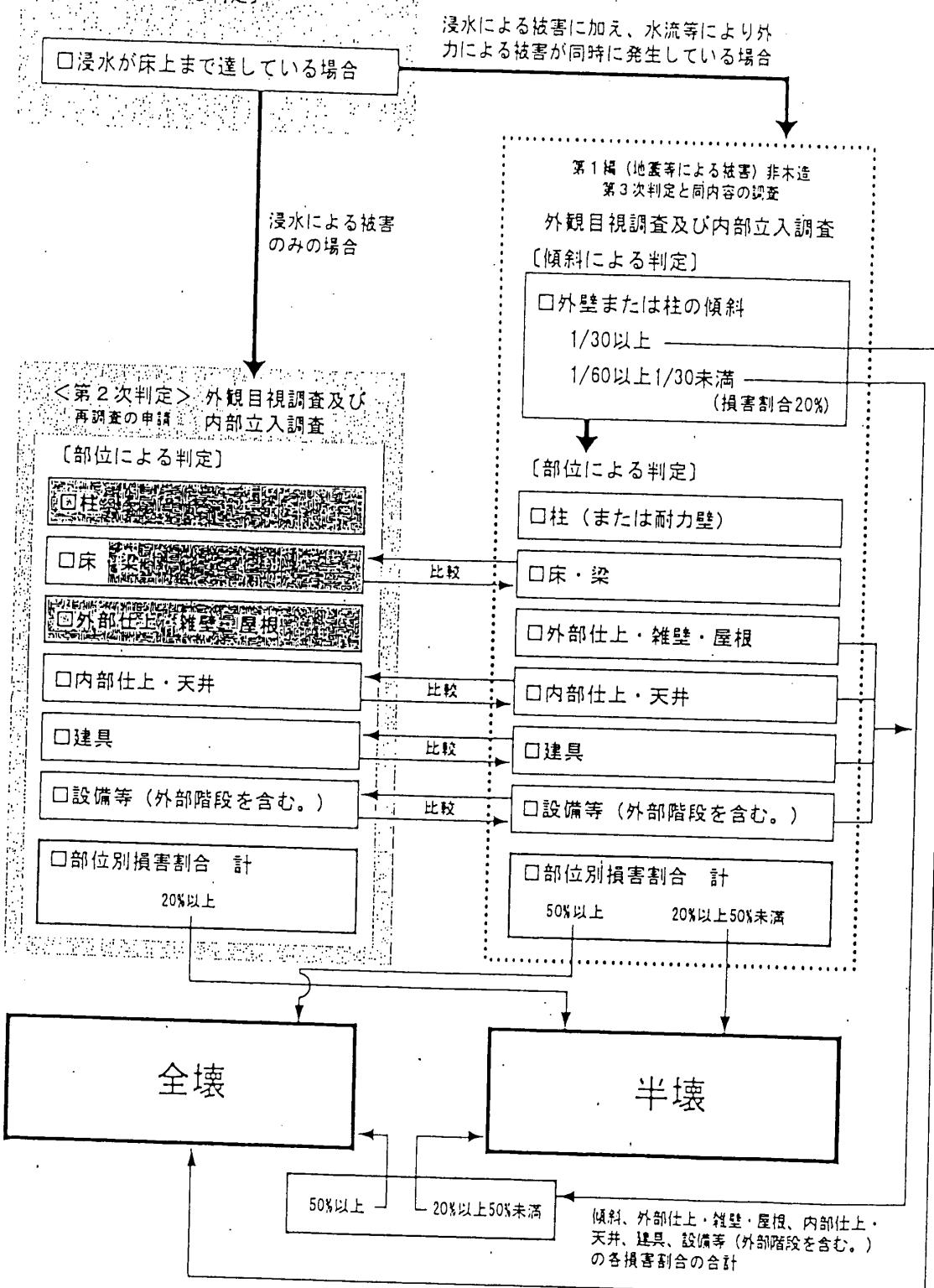
20%以上50%未満

傾斜、外部仕上・雑壁・屋根、内部仕上・
天井、建具、設備等 (外部階段を含む。)
の損害割合の合計

第2編（浸水による被害） 非木造

＜第1次判定＞外観目視調査

〔外観目視による判定〕



注1：浸水による被害のみの場合、柱、梁、外部仕上・雑壁・屋根は被害が生じる可能性が高いと考え、認定の対象部位から除外している。

注2：浸水による被害に加え、水流等により外力による被害が同時に発生している場合には、第1編（地盤等による被害）第3次判定と同内容の調査による判定を行い、浸水による被害がある部位について第2編（浸水による被害）第2次判定を行う。ふたつの判定で部位別の損害割合に差が生じる場合には、より大きい方を損害割合とすることができる。

住家被害調査表(木造・プレハブ)

整理番号

住家所在地			
所有者	調査日	年月日	
居住者	調査員氏名		
連絡先等			

<1>

○一見して	*該当する場合は□にチェックし調査終了。該当しない場合<2>へ進む。		
	・住家全部が倒壊(=全壊判定。)	<input type="checkbox"/>	
	・住家の一部の階が全部倒壊(=全壊判定。)	<input type="checkbox"/>	

<2>

(1) 傾斜	*測定結果を下表に記入し、該当するものの□にチェックする。								
	測定箇所							平均	
	水平距離(mm)								
	・傾斜の状況(スケッチ等)								
	(チェック欄:()内は下げ振り1200mmの場合の例)								
	・1/20以上(60mm以上)=全壊判定。	<input type="checkbox"/>							
	・1/20以上1/20未満(20mm以上60mm未満)=損害割合15%とし、(2)へ進む。	<input type="checkbox"/>							
	・1/20未満(20mm未満)=傾斜判定は行わず、(2)へ進む。	<input type="checkbox"/>							

(2) 部位の損傷状況(傾斜が1/20未満の場合に行う。)

①屋根 (10%)	・損傷屋根面割合	<input type="checkbox"/> …(ア)	
	・損傷程度(%)	<input type="checkbox"/> …(イ)	
	(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)		
	・(ア)×(イ)	<input type="checkbox"/> 合計 …(ウ)	
	・よって、屋根全体の損害割合…(ウ)×0.1(構成比)=	<input type="checkbox"/> %…A	
②柱 (又は耐力壁) (30%)	□柱の損傷で判定する場合		
	・損傷柱の状況	程度 (工) 無・軽微	柱の本数(本) (才) $\frac{(工) \times (才)}{\sum 才(才の総計)}$
	←この欄には「軽微・無被害の柱」の本数を記入。		
	10%	<input type="checkbox"/>	
	25%	<input type="checkbox"/>	
	50%	<input type="checkbox"/>	
	75%	<input type="checkbox"/>	
	100%	<input type="checkbox"/>	
	合計	<input type="checkbox"/> …(カ)	
	※(カ)が75%以上である場合、全壊判定。 <input type="checkbox"/>		
・よって、柱全体の損害割合…(カ)×0.3(構成比)=	<input type="checkbox"/> %…B1		

②柱 (又は耐力壁) (30%)	□耐力壁の損傷で判定する場合								
	・損傷耐力壁面割合	<input type="text"/>							…(キ)
	・損傷程度	<input type="text"/>							…(ク)
(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)									
・(キ)×(ク)	<input type="text"/>							合計 …(ケ)	
※(ケ)が75%以上である場合、全壊判定。 <input type="checkbox"/>									
・よって、耐力壁全体の損害割合…(ケ)×0.3(構成比)= <input type="text"/> %…B2									
③壁(外壁) (50%)	・損傷外壁面割合	<input type="text"/>							…(コ)
	・損傷程度(%)	<input type="text"/>							…(サ)
	(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)								
・(コ)×(サ)	<input type="text"/>							合計 …(シ)	
・よって、壁(外壁)全体の損害割合…(シ)×0.5(構成比)= <input type="text"/> %…C									
④基礎 (10%)	・外周基礎長	<input type="text"/>	m	…(ス)					
	・損傷基礎長	<input type="text"/>	m	…(セ)					
	(セ)÷(ス)×100= <input type="text"/> %…(ソ)								
※(ソ)が75%以上である場合、全壊判定。 <input type="checkbox"/>									
・よって、基礎全体の損害割合…(ソ)×0.1(構成比)= <input type="text"/> %…D									
⑤集計	□傾斜が1/60以上1/20未満のとき								
	・傾斜(15%)+A+C= <input type="text"/> %…E								
	・A+(B1又はB2)+C+D= <input type="text"/> %…F								
EとFを比較した結果、大きい数値は <input type="text"/> %=住家全体の損害割合									
□傾斜が1/60未満のとき									
A+(B1又はB2)+C+D= <input type="text"/> %=住家全体の損害割合									
⑥特記事項									

(注1)計算は、その都度小数第1位を四捨五入する。

(注2)損傷面の割合は、全体を「1」として算定する。

住家被害調査表(非木造)

整理番号

住家所在地			
所有者	調査日	年月日	
居住者	調査員氏名		
連絡先等			

<1>

○一見して	*該当する場合は□にチェックし調査終了。該当しない場合<2>へ進む。 ・住家全部が倒壊(=全壊判定。) <input type="checkbox"/> ・住家の一部の階が全部倒壊(=全壊判定。) <input type="checkbox"/>		
-------	---	--	--

<2>

(1) 傾斜	*測定結果を下表に記入し、該当するものの□にチェックする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定箇所</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水平距離(mm)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・傾斜の状況(スケッチ等) (チェック欄:()内は下げる振り1200mmの場合の例) ・1/30以上(40mm以上)=調査終了:全壊判定。 <input type="checkbox"/> ・1/60以上1/30未満(20mm以上40mm未満)=損害割合20%とし、(2)へ進む。 <input type="checkbox"/> ・1/60未満(20mm未満)=傾斜判定は行わず、(2)へ進む。 <input type="checkbox"/>			測定箇所							平均	水平距離(mm)							
測定箇所							平均												
水平距離(mm)																			

(2) 部位の損傷状況(傾斜が1/30未満の場合に行う。)

①-1. 柱 (60%)	□柱の損傷で判定する場合			
	・損傷柱の状況	程度 (ア)	柱の本数(本) (イ)	$\frac{(ア) \times (イ)}{\sum (イ) \text{の総計}}$
		無・軽微	←この欄には「軽微・無被害の柱」の本数を記入。	
		10%		
		25%		
		50%		
		75%		
	100%			
	合計			…(ウ)
※(ウ)が75%以上である場合、全壊判定。 <input type="checkbox"/>				
・よって、柱全体の損害割合…(ウ) × 0.6(構成比)= <input type="text"/> % …A1				

①-2. 外壁 (90%)	□外壁の損傷で判定する場合				
	・損傷外壁面割合	<input type="text"/> …(エ)			
	・損傷程度(%)	<input type="text"/> …(オ)			
	(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)				
	・(エ)×(オ)	<input type="text"/> …(カ)			合計 <input type="text"/> …(カ)
※(カ)が75%以上である場合、全壊判定。 <input type="checkbox"/>					
・よって、外壁全体の損害割合…(カ) × 0.9(構成比)= <input type="text"/> % …A2					

②雑壁・仕上等 (30%) *柱で判定する場合のみ	・損傷雑壁仕上割合	<input type="text"/>	…(キ)				
	・損傷程度(%)	<input type="text"/>	…(ク)				
		(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)					
③設備等 (+外部階段) (10%)	・(キ)×(ク)	<input type="text"/>	合計	…(ケ)			
	・よって雑壁・仕上面全体の損害割合…(ケ) × 0.3(構成比) =	<input type="text"/>	%	…B			
	・設備の損傷を具体的に記入する。						
④-1集計 (柱で判定)	・よって、設備全体の損害割合…	<input type="text"/>	%	…C			
	□傾斜が1/60以上1/30未満のとき	<input type="text"/>	%	…D			
	・傾斜(20%) + B + C =	<input type="text"/>	%	…E			
④-2集計 (外壁で判定)	DとEを比較した結果、大きい数値は	<input type="text"/>	%	=住家全体の損害割合			
	□傾斜が1/60未満のとき	<input type="text"/>	%	=住家全体の損害割合			
	A1 + B + C =	<input type="text"/>	%	=住家全体の損害割合			
⑤特記事項	□傾斜が1/60以上1/30未満のとき	<input type="text"/>	%	…F			
	・傾斜(20%) + C =	<input type="text"/>	%	…G			
	FとGを比較した結果、大きい数値は	<input type="text"/>	%	=住家全体の損害割合			
□傾斜が1/60未満のとき	<input type="text"/>	%	=住家全体の損害割合				
A2 + C =	<input type="text"/>	%	=住家全体の損害割合				

(注1)計算は、その都度小数第1位を四捨五入する。

(注2)損傷面の割合は、全体を「1」として算定する。

住家被害調査表(木造・プレハブ:浸水被害)

整理番号

--

住家所在地			
所有者		調査日	年月日
居住者		調査員氏名	
連絡先等			

<1>

○浸水	*いずれか該当するものの□にチェックする。 ・浸水が床上まで達していない(=調査終了。) ・浸水が床上まで達している(=<2>へ進む。) ・浸水被害に加え、物理的な被害が生じている(=混合被害調査表へ進む。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
-----	---	--------------------------	--------------------------	--------------------------

<2>

○部位の損傷状況				
①屋根 (10%)	・損傷屋根面割合	<input type="text"/> …(ア)		
	・損傷程度(%)	<input type="text"/> …(イ)		
		(↑各々25または50のいずれかの数値を記入。)		
	・(ア)×(イ)	<input type="text"/> 合計…(ウ)		
		・よって、屋根全体の損害割合…(ウ)×0.1(構成比)= <input type="text"/> %…a		
②床(十階段) (10%)	・損傷床(階段)割合	<input type="text"/> …(エ)		
	・損傷程度(%)	<input type="text"/> …(オ)		
		(↑各々25または50のいずれかの数値を記入。)		
	・(エ)×(オ)	<input type="text"/> 合計…(カ)		
		・よって、床(階段)全体の損害割合…(カ)×0.1(構成比)= <input type="text"/> %…c		
③外壁 (15%)	・損傷外壁面割合	<input type="text"/> …(キ)		
	・損傷程度(%)	<input type="text"/> …(ク)		
		(↑各々50または100のいずれかの数値を記入。)		
	・(キ)×(ク)	<input type="text"/> 合計…(ケ)		
		・よって、外壁全体の損害割合…(ケ)×0.15(構成比)= <input type="text"/> %…d		
④内壁 (15%)	・損傷内壁面割合	<input type="text"/> …(コ)		
	・損傷程度(%)	<input type="text"/> …(サ)		
		(↑各々30または100のいずれかの数値を記入。)		
	・(コ)×(サ)	<input type="text"/> 合計…(シ)		
		・よって、内壁全体の損害割合…(シ)×0.15(構成比)= <input type="text"/> %…e		

⑤天井 (5%)	・損傷天井面割合	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> …(ス)																										
	・損傷程度(%)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> …(セ)																										
(↑各々30または100のいずれかの数値を記入。)																												
・(ス)×(セ)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 合計…(ソ)																											
・よって、天井全体の損害割合…(ソ) × 0.05(構成比) = <table border="1" style="width: 20px; height: 20px; vertical-align: middle;"></table> %…f																												
⑥建具 (10%)	・損傷建具の状況	<table border="1" style="width: 100px; height: 100px;"> <thead> <tr> <th>程度 (タ)</th> <th>建具枚数(枚) (チ)</th> <th><u>(タ) × (チ)</u> $\Sigma \text{チ}(\text{チの総計})$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無・軽微</td> <td></td> <td>←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。</td> </tr> <tr> <td>15%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> …(ツ)	程度 (タ)	建具枚数(枚) (チ)	<u>(タ) × (チ)</u> $\Sigma \text{チ}(\text{チの総計})$	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。	15%			100%			合計													
	程度 (タ)	建具枚数(枚) (チ)	<u>(タ) × (チ)</u> $\Sigma \text{チ}(\text{チの総計})$																									
	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。																									
	15%																											
100%																												
合計																												
・よって、建具全体の損害割合…(ツ) × 0.1(構成比) = <table border="1" style="width: 20px; height: 20px; vertical-align: middle;"></table> %…g																												
⑦設備 (5%)	・設備の損傷を具体的に記入する。																											
	・よって、設備全体の損害割合… <table border="1" style="width: 20px; height: 20px; vertical-align: middle;"></table> %…i																											
	⑧集計	□浸水被害のみの場合																										
		a+c+d+e+f+g+i = <table border="1" style="width: 20px; height: 20px; vertical-align: middle;"></table> % = 住家全体の損害割合																										
□混合被害の場合(比較して大きい数値をとる)																												
比較表		<table border="1" style="width: 100px; height: 100px;"> <thead> <tr> <th>屋根</th> <th>A対a ...</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱(又は耐力壁)及び基礎</td> <td>(B1又はB2)+H</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対傾斜</td> <td>対(1) ...</td> <td></td> </tr> <tr> <td>床(+階段)</td> <td>C対c ...</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外壁</td> <td>D対d ...</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内壁</td> <td>E対e ...</td> <td></td> </tr> <tr> <td>天井</td> <td>F対f ...</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建具</td> <td>G対g ...</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設備</td> <td>I対i ...</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	屋根	A対a ...		柱(又は耐力壁)及び基礎	(B1又はB2)+H		対傾斜	対(1) ...		床(+階段)	C対c ...		外壁	D対d ...		内壁	E対e ...		天井	F対f ...		建具	G対g ...		設備	I対i ...
屋根	A対a ...																											
柱(又は耐力壁)及び基礎	(B1又はB2)+H																											
対傾斜	対(1) ...																											
床(+階段)	C対c ...																											
外壁	D対d ...																											
内壁	E対e ...																											
天井	F対f ...																											
建具	G対g ...																											
設備	I対i ...																											
<table border="1" style="width: 100px; height: 20px; vertical-align: middle;"></table> % = 住家全体の損害割合																												
①特記事項																												

(注1)計算は、その都度小数第1位を四捨五入する。
 (注2)損傷面の割合は、全体を「1」として算定する。

住家被害調査表(木造・プレハブ:混合被害)

整理番号

住家所在地							
所有者		調査日	年 月 日				
居住者		調査員氏名					
連絡先等							

<3>

(1) 傾斜		*測定結果を下表に記入し、該当するものの□にチェックする。 <table border="1"> <tr> <td>測定箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>平均</td> </tr> <tr> <td>水平距離(mm)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・傾斜の状況(スケッチ等) (チェック欄:()内は下げる振り1200mmの場合の例) ・1/20以上(60mm以上)=全壊判定。 <input type="checkbox"/> ・1/60以上1/20未満(20mm以上60mm未満)=損害割合15%とし、(2)へ進む。 <input type="checkbox"/> ・1/60未満(20mm未満)=傾斜判定は行わず、(2)へ進む。 <input type="checkbox"/>							測定箇所							平均	水平距離(mm)							
測定箇所							平均																	
水平距離(mm)																								
(2) 部位の損傷状況(傾斜が1/20未満の場合に行う。)																								
①屋根 (10%)	・損傷屋根面割合	<input type="text"/> ...(ア)																						
	・損傷程度(%)	<input type="text"/> ...(イ)																						
	(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)							合計																
	・(ア)×(イ)	<input type="text"/> ...(ウ)																						
・よって、屋根全体の損害割合…(ウ)×0.1(構成比)= <input type="text"/> %…A																								
②柱 (又は耐力壁) (20%)	□柱の損傷で判定する場合																							
	・損傷柱の状況	程度 (工)	柱の本数(本) (才)	$\frac{(工) \times (才)}{\sum (才) (才の総計)}$																				
		←この欄には「軽微・無被害の柱」の本数を記入。																						
		無・軽微	<input type="text"/>																					
		10%	<input type="text"/>																					
		25%	<input type="text"/>																					
		50%	<input type="text"/>																					
		75%	<input type="text"/>																					
		100%	<input type="text"/>																					
	合計	<input type="text"/>						…(カ)																
※(カ)が75%以上である場合、全壊判定。 <input type="checkbox"/>																								
・よって、柱全体の損害割合…(カ)×0.2(構成比)= <input type="text"/> %…B1																								
□耐力壁の損傷で判定する場合																								
・損傷耐力壁面割合	<input type="text"/> ...(キ)																							
	・損傷程度	<input type="text"/> ...(ク)																						
		(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)							合計															
		・(キ)×(ク)	<input type="text"/> ...(ケ)																					
※(ケ)が75%以上である場合、全壊判定。 <input type="checkbox"/>																								
・よって、耐力壁全体の損害割合…(ケ)×0.2(構成比)= <input type="text"/> %…B2																								

③床(十階段) (10%)	・損傷床(階段)割合	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(コ)																								
	・損傷程度(%)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(サ)																								
	・(コ)×(サ)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(シ)																								
(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。) 合 計																											
・よって、床(階段)全体の損害割合…(シ)×0.1(構成比)= <table border="1" style="width: 80px; height: 20px;"></table> %…C																											
④外壁 (15%)	・損傷外壁面割合	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(ス)																								
	・損傷程度(%)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(セ)																								
	・(ス)×(セ)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(ソ)																								
(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。) 合 計																											
・よって、外壁全体の損害割合…(ソ)×0.15(構成比)= <table border="1" style="width: 80px; height: 20px;"></table> %…D																											
⑤内壁 (15%)	・損傷内壁面割合	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(タ)																								
	・損傷程度(%)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(チ)																								
	・(タ)×(チ)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(ツ)																								
(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。) 合 計																											
・よって、内壁全体の損害割合…(ツ)×0.15(構成比)= <table border="1" style="width: 80px; height: 20px;"></table> %…E																											
⑥天井 (5%)	・損傷天井面割合	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(テ)																								
	・損傷程度(%)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(ト)																								
	・(テ)×(ト)	<table border="1" style="width: 100px; height: 20px;"></table>	…(ナ)																								
(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。) 合 計																											
・よって、天井全体の損害割合…(ナ)×0.05(構成比)= <table border="1" style="width: 80px; height: 20px;"></table> %…F																											
⑦建具 (10%)	・損傷建具の状況	<table border="1" style="width: 100px; height: 150px;"> <thead> <tr> <th>程度 (二)</th> <th>建具枚数(枚) (ヌ)</th> <th>$\frac{(二) \times (ヌ)}{\sum ヌ(ヌの総計)}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無・軽微</td> <td></td> <td>←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。</td> </tr> <tr> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>25%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>75%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	程度 (二)	建具枚数(枚) (ヌ)	$\frac{(二) \times (ヌ)}{\sum ヌ(ヌの総計)}$	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。	10%			25%			50%			75%			100%			合計			…(ネ)
	程度 (二)	建具枚数(枚) (ヌ)	$\frac{(二) \times (ヌ)}{\sum ヌ(ヌの総計)}$																								
	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。																								
10%																											
25%																											
50%																											
75%																											
100%																											
合計																											
・よって、建具全体の損害割合…(ネ)×0.1(構成比)= <table border="1" style="width: 80px; height: 20px;"></table> %…G																											
⑧基礎 (10%)	・外周基礎長	<table border="1" style="width: 50px; height: 20px;"></table> m	…(ノ)																								
	・損傷基礎長	<table border="1" style="width: 50px; height: 20px;"></table> m	…(ハ)																								
	$(ハ) \div (ノ) \times 100 = \% \dots (ヒ)$																										
※(ヒ)が75%以上である場合、全壊判定。 □																											
・よって、基礎全体の損害割合…(ヒ)×0.1(構成比)= <table border="1" style="width: 80px; height: 20px;"></table> %…H																											

⑨設備 (5%)	・設備の損傷を具体的に記入する。
	・よって、設備全体の損害割合… %…!
⑩特記事項	

(注1)計算は、その都度小数第1位を四捨五入する。
(注2)損傷面の割合は、全体を「1」として算定する。

住家被害調査表(非木造:浸水被害)

整理番号

住家所在地			
所有者	調査日	年月日	
居住者	調査員氏名		
連絡先等			

<1>

○浸水	いずれか該当するもの□にチェック。
	・浸水が床上まで達していない(=判定は行わない。) <input type="checkbox"/>
	・浸水が床上まで達している(=<2>へ進む。) <input type="checkbox"/>
	・浸水被害の他物理的な被害が生じている(=混合被害調査表へ進む。) <input type="checkbox"/>

<2>

(2) 部位の損傷状況

①床 (10%)	・損傷床割合	<input type="text"/>	…(ア)															
	・損傷程度(%)	<input type="text"/>	…(イ)															
	(↑各々25または50のいずれかの数値を記入。)																	
	・(ア)×(イ)	<input type="text"/>	合計 <input type="text"/> …(ウ)															
・よって、床全体の損害割合…(ウ)×0.1(構成比)= <input type="text"/> %…b																		
②内部仕上・ 天井 (10%)	・損傷仕上等割合	<input type="text"/>	…(エ)															
	・損傷程度(%)	<input type="text"/>	…(オ)															
	(↑各々30または100のいずれかの数値を記入。)																	
	・(エ)×(オ)	<input type="text"/>	合計 <input type="text"/> …(カ)															
・よって、内部仕上等全体の損害割合…(カ)×0.1(構成比)= <input type="text"/> %…d																		
③建具 (10%)	・損傷建具の状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>程度 (キ)</th> <th>建具枚数(枚) (ク)</th> <th>(キ)×(ク) Σク(クの縦計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無・軽微</td> <td></td> <td>←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。</td> </tr> <tr> <td>15%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>…(ケ)</td> </tr> </tbody> </table>	程度 (キ)	建具枚数(枚) (ク)	(キ)×(ク) Σ ク(クの縦計)	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。	15%			100%			合計		…(ケ)	
	程度 (キ)	建具枚数(枚) (ク)	(キ)×(ク) Σ ク(クの縦計)															
	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。															
	15%																	
100%																		
合計		…(ケ)																
・よって、建具全体の損害割合…(ケ)×0.1(構成比)= <input type="text"/> %…e																		
④設備等 (+外部階段) (10%)	・設備の損傷を具体的に記入する。																	
	・よって、設備全体の損害割合… <input type="text"/> %…f																	

⑤集計

□浸水被害のみの場合

$$b+d+e+f =$$

%=住家全体の損害割合

□混合被害の場合(比較して大きい数値をとる)

比較表

柱(又は耐力壁)及び床・ 梁対傾斜	(A1又はA2)+(B対b) 対傾斜 ...	
外部仕上・雑壁・屋根	C ...	
内部仕上・天井	D対d ...	
建具	E対e ...	
設備等(外部階段含む。)	F対f ...	

%=住家全体の損害割合

⑥特記事項

(注1)計算は、その都度小数第1位を四捨五入する。

(注2)損傷面の割合は、全体を「1」として算定する。

住家被害調査表(非木造:混合被害)

整理番号

住家所在地			
所有者		調査日	年月日
居住者			
連絡先等		調査員氏名	

<構造種別>	<input type="checkbox"/> 鉄骨造	<input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造
--------	------------------------------	------------------------------------

<3>

(1) 傾斜	*測定結果を下表に記入し、該当するものの□にチェックする。						
	測定箇所						平均
	水平距離(mm)						
・傾斜の状況(スケッチ等)							
<p>(チェック欄:()内は下げ振り1200mmの場合の例) ・1/30以上(40mm以上)=調査終了:全壊判定。 ・1/60以上1/30未満(20mm以上40mm未満)=損害割合20%とし、(2)へ進む。 ・1/60未満(20mm未満)=傾斜判定は行わず、(2)へ進む。</p>							
(2) 部位の損傷状況(傾斜が1/30未満の場合に行う。)							
①柱 (又は耐力壁) (50%)	・損傷柱の状況	<input type="checkbox"/> 柱の損傷で判定する場合					
		程度 (ア)	柱の本数(本) (イ)	(ア)×(イ) Σイ(イの総計)			
		無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の柱」の本数を記入。			
		10%					
		25%					
		50%					
		75%					
		100%					
合計						…(ウ)	
<p>※(ウ)が75%以上である場合、全壊判定。 ・よって、柱全体の損害割合…(ウ)×0.5(構成比)= %…A1</p>							
<p>・耐力壁の損傷で判定する場合</p>							
<p>・損傷耐力壁面割合 …(エ)</p>							
<p>・損傷程度(%) …(オ)</p>							
<p>(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)</p>							
<p>(↑なお、鉄骨造の場合は10、25、50のいずれかの数値を記入。) 合 計</p>							
<p>・(エ)×(オ) …(カ)</p>							
<p>※鉄筋コンクリート造の場合のみ(カ)が75%以上であれば全壊判定。</p>							
<p>・よって、耐力壁全体の損害割合…(カ)×0.5(構成比)= %…A2</p>							

②床・梁 (10%)	・損傷床・梁割合	<input type="text"/>	…(キ)																								
	・損傷程度(%)	<input type="text"/>	…(ク)																								
	(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。) ※梁の損傷率が75%以上であれば全壊判定。																										
③外部仕上・ 雑壁・屋根 (10%)	・損傷仕上等割合	<input type="text"/>	…(コ)																								
	・損傷程度(%)	<input type="text"/>	…(サ)																								
	(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)																										
④内部仕上・ 天井 (10%)	・損傷仕上等割合	<input type="text"/>	…(ス)																								
	・損傷程度(%)	<input type="text"/>	…(セ)																								
	(↑各々10、25、50、75、100のいずれかの数値を記入。)																										
⑤建具 (10%)	・損傷建具の状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>程度 (タ)</th> <th>建具枚数(枚) (チ)</th> <th>$\frac{(タ) \times (チ)}{\sum \chi}$ $\Sigma \chi$(チの総計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無・軽微</td> <td></td> <td>←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。</td> </tr> <tr> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>25%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>75%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	程度 (タ)	建具枚数(枚) (チ)	$\frac{(タ) \times (チ)}{\sum \chi}$ $\Sigma \chi$ (チの総計)	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。	10%			25%			50%			75%			100%			合計			…(ツ)
	程度 (タ)	建具枚数(枚) (チ)	$\frac{(タ) \times (チ)}{\sum \chi}$ $\Sigma \chi$ (チの総計)																								
	無・軽微		←この欄には「軽微・無被害の建具」の本数を記入。																								
10%																											
25%																											
50%																											
75%																											
100%																											
合計																											
・よって、建具全体の損害割合…(ツ) × 0.1(構成比) = <input type="text"/> %…E																											
⑥設備等 (+外部階段) (10%)	・設備の損傷を具体的に記入する。																										
	・よって、設備全体の損害割合… <input type="text"/> %…F																										